

被害実態しつかりを把握し、支援策の充実を！ 深刻化する干ばつ被害の対策で質疑



市議会農政建設常任委員会が6日開催され、干ばつ被害対策の質疑が行われました。市の応急対策は別掲の記事をのらんください。市の説明後、委員からは、しつかりした調べを早めにやっておくことが大事だ、前回の被害のときにため池を造った方がいいのではないかと提案したが、その後、どうなったか、2次被害対策はどうするか、園芸の被害は把握しているか、などの質問が出されました。

これに対して担当課長は、「調査は7月19日からやっている。被害の区分については県の指導を受けた」とため池は前回の干ばつ以降、安塚区などで12か所新設してきた。ため池整備は有効だと思っている」と園芸についてはJAで調査中。近く明らかにできる」と答えていました。

私は、委員長長の許可を得て、番外質問をしました（左写真）。

1つは被害調査です。この日の調査結果には、被害を受けているにもかかわらず名前が載っていないところがあることから、「調査は漏れ落ちなく、早めにやっておく」と訴えました。2つ目は消雪用井戸の利用についてです。今回、市内7か所の市所有井戸を利用できるということですが、「どの地域に住んでいても利用できるのか」と聞きました。また、「県所有の消雪用井戸の利用についてはどうなっているのか」とも質問しました。市所有井戸は地域に関係なく利用できるし、そのことを広報するとの容弁でした。県所有の井戸については土地改良区などが県と交渉中との答えでしたが、そうであれば、その結果を含め、市のホームページに載せるべきだと私から注文を付けました。3つ目は干ばつ常襲地域のため池整備について。干ばつのたびに耕作放棄が進んでいる実態があることを明らかにしつつ、「農地を（ため池に転換し）減らしても耕作を可能とする思い切った対策が求められているのではないかと訴えました。応急対策は、被災者の要望に基づき、充実させてほしいですね。



市が発表した被害状況、農地の渇水対策等についての概要です。

まず水稻の被害状況です。水稻に関しては、安塚区、浦川原区、牧区、吉川区など8つの区で106ヘクタール（このうち、12ヘクタールでは枯死）に被害が発生しています。畜産関係では、猛暑で7371羽の鶏、乳牛1頭が死亡。

干ばつ被害についての相談窓口を農政課および各区総合事務所に開設したところ、82件の相談があったといえます。いずれも5日、午後5時現在。

こうした事態を受け、市では3日上越市農地渇水対策本部を設置し、6日には応急対策について確認し、市議会でも明らかにしました。

その対策の主な内容は、①代替の農業用水確保のため、消雪用井戸を利用し給水できるようにする。（金谷区3カ所、頸城区花ヶ崎、三和区西部工業団

ポンプ等の借り上げ、購入で補助

地、清里区菅原、板倉区針）、②かん水用機械等の整備に要する経費を支援する。（ポンプやポンプ車の借り上げ、ポンプ・ホース・大型ポリタンクの購入）、③新たな用水確保の施設整備に要する経費を支援する。（用水確保工事など）、④畜舎の暑熱対策に要する経費を支援する。⑤水田のかん水に使用したポンプ燃料費を助成する。（JAえちご上越）、⑥被害のあった農作物等の損害を補償する。（農業共済制度で）となっています。詳しいことは市役所農政課または各区総合事務所にお尋ねください。

こうした対策は被害の実態などに応じて柔軟に対応することが大事です。



頸城区花ヶ崎の消雪用井戸



【トウキ】セリ科の多年草。漢字で「当帰」と書きます。花は6～8月に咲きます。薬用植物。全草にセロリっぽい強い芳香あり。干して虫よけにも出来ます。花言葉は「インスピレーション」「靈感」。吉川区にて8日撮影。

はしづめ法一の
活動レポート

No.1870 2018.8.12

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第五一八回

セミファイナル

今年は、「これはどんぴしゃりだ」と思う言葉に時どき出合います。そうした言葉に出合うたびに、うれしく思ったり、感心したり……。

先日の朝のこと、五時過ぎに家を出て一分ほど歩いたときでした。市道代石小苗代線の起点付近の路上で、一匹のアブラゼミがひっくり返って、ぐるぐるまわっていました。回転中のコマほどではないにせよ、とても速く、勢いがありました。

大急ぎでスマートフォンを使って、この様子を動画に収めました。このアブラゼミは、同じ場所ですっきりとしているのではなく、体を回転させ、羽の音を立てながらスツと移動していましたから、カメラで追うのがやつとでした。

撮り終わってじきに、フェイスブックでセミの様子を発信しました。「ひっくり返ったセミ」というタイトルをつけ、「どこから飛んできて、落ちちゃったのでしよう。アブラゼミが路上でひっくり返って回転していました。手で拾い上げ、草むらに置きました。これでしばらくは生きるでしょう」というコメントを添えました。

しばらくして、市内の二人の方からコメントを寄せていただきました。Sさんからは、「蝉は構造からでしょうか？舗装面などの平面だと起きられない様です。もがいて疲れてしまい天を仰いでいる蝉をみたら、早まるな！気が早い、もう少し生きろ！……と、つまんで空に投げると、我に返って『爺』と言って飛んでいきます」とユーモアいっぱいコメントです。いま一人、Yさんからは、「昆虫学者さんによると、この状態は『セミファイナル』というらしいです」とありました。

二人とも私の知っている人だけに、とてもうれしくなりました。二人のコメントを

読んで思ったのは、セミという小さな昆虫がこの世に生を受け、自らの生涯を終える最後の場面を見つめる目のやさしさです。

二人のコメントにはそれぞれの思いも書かれていて楽しく拝見したのですが、Yさんの「セミファイナル」という言葉がとても新鮮でした。これまでファイナルとかセミファイナルといった言葉はテレビのスポーツ番組くらいでしか聞いたことがなかったからです。

さっそくインターネットで調べてみると、「スポーツで、準決勝の試合。準決勝戦」というのが出てきました。それともう一つ、「一見死んでいるように見えるが近くと突然動き出す蝉（セミ）のこと」というのがあったのです。後者の意味は、使われ始めてからまだ歴史は浅いようです。

私が市道で見たケースでは、セミが「死んでいるように見える」状態ではなく、回転していました。おそらく、私が近づいて、セミがびっくりし、回転し始めたのでしよう。どうあれ、「セミファイナル」状態の一過程であったことだけは確かです。

英語で「semi=セミ」とは、「半分」「半ば」「やや」といった意味です。でも、昆虫のアブラゼミが生涯の最終章で頑張りを見せているときに「セミファイナル」という言葉を使うと、「半分」とか言う意味合いは消え、「セミの最後の頑張りと聞こえてくるのは私だけでしょうか。そして、何となく応援したくなりませんか。

アブラゼミがひっくり返っている姿を見たのは今夏は二回目でした。一回目のときは、玄関の外で動かなくなっていました。でも正常の状態に戻し、カメラを向けた瞬間、バタバタと飛び立ったのです。まさに「セミファイナル」、びっくりでした。

ニュースフラッシュ



越後よしかわやっただれ祭

4日の祭りは20回目の未来にむけて変化を感じる節目の祭りとなりました。小中学生がペットボトルを活用した稲穂竿灯づくり、神樂運行などで大活躍、祭りの大事な担い手となっています。私も初めて神樂運行に参加、汗びっしょりに。

初心者もベテランも出展可能

だれでも出展できる柿崎区直海浜の光徳寺作品展も今年で9回目。お御堂には絵画、写真、木作品などが並びました。右の写真は滝澤さんの「ハーバリウム」、3本のビンのフタを開けたら、音楽が流れてきたりして……。16日まで。



発動機の音が聞きたくて…

5日の安塚の歩天まつり。今年も全国から発動機が持ち込まれました。会場には懐かしのエンジン音が聞きたくて出かけた人が大勢いましたね。本部前では丸太の早切り競技が行われていました。今年も元気な女性たちの参加が注目されました。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	8月1日(水)	8月8日(水)
上越南消防署	0.047	0.053
上越北消防署	0.047	0.050
新井消防署	0.050	0.040
頸北消防署	0.047	0.040
頸南消防署	0.047	0.057
東頸消防署	0.050	0.040
高士分遣所	0.043	0.050
名立分遣所	0.057	0.050